



2021年7月16日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン第9回定期大会

「会社と共に」を實踐し、組織の総力で難局を乗り越える

ジェイアール・イーストユニオンは7月9日、品川中小企業センターをメイン会場に、仙台と新潟の会場をWEB会議ツールであるZoomにて結び、第9回定期大会を開催した。スローガンには「組織の総力をあげて難局を乗り越え、私たちの掲げた“会社と共に”の實踐から会社の持続的成長と組合員・家族の幸せを實現しよう！」を掲げ、2021年度の運動方針を満場一致で決定した。



来賓として、JR連合の政所大祐事務局長と中山耕介特別執行委員がメイン会場に、宮野勇馬企画部長と相良夏樹組織部長がZoomオンライン上でそれぞれ出席した。

冒頭の挨拶で菅野一位中央執行委員長（JR連合副会長）は「コロナ禍でJR産業が危機に陥る中、JR東日本会社も大幅な赤字決算となり、人件費にも手を付けるような状況となっている。このような中で労働組合の必要性を実感する社員も多くいることが分かった。過去に回帰しない形で会社に向き合い、組合員の不安を解消していくことのできる労働組合は“会社と共に”を掲げる我々だけであり、仲間を増やすべく行動を實踐していく」と決意を述べた。



来賓として挨拶に立った政所事務局長は「JR産業で3兆円の売り上げが消失しており、政策面の重要課題として早期の需要回復に向けてしっかり取り組む。

JR東日本では、様々な施策を言わば会社が一方的に進めている。安全を守り、真に強い会社にするためには、健全な労働組合のチェック機能が不可欠。“会社と共に”を掲げるジェイアール・イーストユニオンへの結集に向けてJR連合としても取り組む」と訴えた。

議事では2021年度の運動方針等が提起され、質疑・答弁、菅井正和事務局長の集約答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。最後に、再任された菅野中央執行委員長が「団結ガンバロー」で定期大会を締めくくった。